

令和7年9月定例会

所 信 表 明

■ 令和7年9月1日

■ 午前10時から

戦後 80 年を迎えた今なお世界では戦争が絶えず、
自国ファーストの考え方が広く支配する様相の中、世
界平和の出口は一筋の光と表現されるほど難しい時
代を我々は生きています。

本市においても、戦争の犠牲になられた多くの御霊
に対し、その犠牲の元守られた平和な今を生きる小浜
市民の皆様を代表し謹んで哀悼の誠を捧げます。

そして、平和と繁栄の小浜の未来「みんなが潤う新
しい小浜」へ向け市政の運営に務めることを冒頭お誓
い申し上げ所信を申し述べさせていただきたいと思
います。

令和 7 年 9 月小浜市議会定例会が開会されるに当
たり、所信を申し述べる機会をいただきましたこと、
厚く感謝申し上げます。

市民の皆様からの付託を受け、小浜市長としての職務をスタートしてから、8月で市長就任1年を迎えました。

すべての小浜市民が潤う新しい小浜の未来のためにオール小浜体制で挑戦をしていくこと、自主財源の確保も含め自分たちのまちは自分たちで創るチカラを付けていくこと、北陸新幹線小浜京都ルートでの一日も早い全線開業に向けては「いまから」新しいまちづくりにも取り組むことなど昨年この場で所信をお伝えし取り組んでまいりました。

市議会議員の皆様におかれましては、この一年議論を交わし、ご理解ご協力いただきましたことに心から感謝申し上げます。

現在、ご承知のとおり小浜市は財政的に大変厳しく、さらに人口減少や少子高齢化も進み、若者の流出が起こりやすい社会構造は東京一極集中の是正がされな

い国政の余波を受け、大変厳しい状況であります。様々困難な状況の最中にある今、小浜が未来を切り拓いていくには「挑戦」する道が必要です。その道を指し示すことこそが、市民の皆様から付託を受けた私の最大の使命であります。

着眼大局 着手小局

目まぐるしいスピードで変化する世界情勢の中、本市の持つ本質的な価値を高め、取り組むべきを選択し、具体的に最後までやり抜くことこそが、今の若い世代が日本の中で輝く小浜を担っている未来の姿を創造します。挑戦する道を共に創ってまいりましょう。

少し1年を振り返りたいと思います。私が市政を運営する上での最も大切にしている方針は、「対話によるまちづくり」であります。まずは、市民の皆様との対話集会を全12地区で開催いたしました。参加者

アンケートでは、約7割の方に「良かった」、「とても良かった」と回答していただきました。さらに本年度から市民の皆様のアイデアが実現出来るよう応援する共創のサイクルへの次のステップへ礎を築くことができました。

まず、最重要施策である北陸新幹線小浜・京都ルート
の早期全線開業に向けての取組です。JR大阪駅等
でのPR活動やYouTube動画配信などの広報
活動、加えて先日のテレビ番組への出演や7月から毎
月記者会見を開催し、北陸新幹線に関するメディアへ
の露出を増やし内外への広報に力を入れるなど機運
の醸成を図ってまいりました。

これに加えて、福井県、各同盟会、嶺南市町、嶺南
市町議長会等による中央への要望を切れ目なく実施
いただいたほか、令和7年初頭には、2つの市民団体
も立ち上がり、小浜・京都ルートの実現に向け、官民

の一層の結束が図られたところでございます。フェン
スタートや署名活動も支援してまいります。

次に、拉致問題において、本年3月19日に石破内
閣総理大臣と林内閣官房長官兼拉致問題担当大臣に
面会し、日朝直接交渉による拉致問題の全面解決など
を強く要望し、3,584筆の署名簿も共に手渡しました。
地村さんからも、「もう時間がない」という大変重い
言葉を伝え、政府におきましては引き続き一刻も早い
全面解決へ向けて取り組むとの言葉もいただきました。
6月には新たに就任されたジョージグラス駐日ア
メリカ大使から公邸招待を受ける機会があり、日米が
協力して全面解決へ取り組んでもらいたいと直接伝
えてまいりました。あらゆる機会を通して、これから
も強く訴えてまいります。

また、私が公約で掲げた「稼ぐ・活かす・育む」の
循環システムでございます。

まず、「稼ぐ」につきましては、ふるさと納税として前年度の2倍強となる約5億2千9百万円のご寄附をいただくことができました。これも、魅力ある返礼品をご提供いただいた地元事業者の皆様のご尽力の賜物であり、もちろん小浜市に魅力を感じてご寄附くださいました皆様のお陰様でもあります。これを通じて、市内産品の需要が高まり、地域経済の活性化につながったものと考えております。

また、「活かす」につきましては、小浜の価値と魅力を磨き上げ、国内外に発信し、投資を呼び込むことにより、持続可能で発展的なまちを目指す、御食国ブランド戦略づくりをスタートさせたところでございます。対話を通して幅広く市民とのブランド戦略会議を重ねているところです。

さらに、「育む」につきましては、「OBAMAジョ

「ブフェス2024」および「OBAMAジョブツアー」を開催し、未来の「おばま」を担う高校生のキャリア教育の充実を進めたところでございます。また、福井大学連合教職大学院と連携し、授業力の向上に関する学校への支援や3S学習のブラッシュアップにも協力いただきます。教育大綱の作成では、こども未来会議や幅広い有識者会議を行っております。

この「稼ぐ・活かす・育む」の循環システムを回しながら、「みんなが潤う、新しい小浜」を目指し、多くの方々のご協力をいただきながら、皆様と共に歩んでまいりました。

以上が、市長就任1年の主な振り返りであり、この間の市政推進にあたっては、市民の皆様、とりわけ議会の皆様には、ご支援、ご協力 また、ご指導をいただきましたこと、この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

それでは、私の今後の所信を申し述べさせていただきます。

まず、今後の市政の進め方については、引き続き「対話によるまちづくり」を基本とし、市民の皆様がまちづくりに参画するプラットフォームといたしまして、各地区における対話集会を開催いたします。先月28日の今富地区からスタートしており、約50名がご参加いただき「新幹線と共に歩む小浜の将来像」をメインのテーマに前向きな対話を交わせました。

さらに、幅広い視点からより具体的なご意見をいただくため、女性や小中高生など属性別や「ブランド戦略」などテーマ別の対話集会にも取り組んでまいります。

次に、本市の最重要施策である「北陸新幹線 小浜・京都ルート」の早期全線開業について申し上げます。

現在進められております北陸新幹線 事業推進調査において、小浜市としての新駅周辺エリアの将来像を示す必要がございますので、今議会終了後にも基本計画策定委員会を立ち上げたいと考えております。

与党整備委員会では、この度の参議院議員通常選挙の結果を受け、敦賀以西の3案を再検証する考えが示されたところでございます。市民の多くの方々から50年以上に渡り敦賀開業まで活動し、9年前に決定したルートを再検証する事に対して、怒りに近い声が届いています。

手戻りは許されない。たとえ再検証がなされたといたしましても、小浜・京都ルートこそが唯一無二のルートであると、より強く訴えてまいります。

北陸新幹線小浜・京都ルートでの一日も早い全線開業に向け、先頭に立ち、全身全霊で取り組んでまいり

ますので、今後とも市民の皆様をはじめ、市議会の皆様、経済界の皆様のご支援、ご協力を引き続きお願い申し上げます。

次に、「短期・中長期的な財政改革」について申し上げます。本市におきましては、経常収支比率が高止まりするなど、財政の硬直化が進んでおります。

小浜らしさを活かした市政運営を進めるためには、財政の弾力性を取り戻すことが不可欠であります。

私は、経営感覚を持って事務事業を見直し、本市の財務体質の改善を図ってまいります。

また、就任時、自主財源の確保のためふるさと納税を4年で10億円まで寄附額を増やしますと強いメッセージをお伝えしました。さらにふるさと納税の寄附文化と投資という視点を持ち、イノベーションを起こしやすい基盤を創っていくと申し述べました。市が稼ぐということよりも、地元事業者の方々にこの制度を

自らの魅力ある商品を全国の方々に知ってもらって手にしてもらおうツールとして最大限活用いただきたいとの考えであります。

今年度は、新たに選定した中間業務事業者と地元事業者との連携をさらに強化し、新規返礼品の掘り起こしや既存返礼品の磨き上げのほか、効果的な情報発信や事業者勉強会などを実施しております。

地域資源の効果的な活用と価値向上を図りながら、本市の魅力を最大限に引き出せるような返礼品の充実や新たな地域価値の創出に取り組んでまいります。

次に、「おばまブランド戦略」について申し上げます。

まず、日本遺産を活用した文化観光の推進につきましては、昨年「御食国若狭と鯖街道」が全国唯一の日本遺産プレミアムに選定されたことを受け、訪日外国人向け情報サイト等へ掲載や、富裕層向けのインバウンドツアーや鯖街道アドベンチャーツアーが造成さ

れるなど、多くの反響をいただきました。

今後も、国や県と連携したPR広報のほか、小浜西組エリア等のまち歩き、神社仏閣、祭礼など滞在につながるコンテンツの充実等に取り組み、訪日外国人旅行者や北陸新幹線を利用される関東・甲信越からの誘客の拡大を図ってまいります。

小浜西組周辺の整備につきましては、古民家を生かした宿泊施設やレストランなど、民間による観光客の受入れ環境の整備を促進するだけでなく、市においても小浜公園や史跡後瀬山城跡の再整備等により、市民の皆様の憩いの場としても充実させてまいります。加えて、各種イベントや放生祭等での活用を図ることで、周辺エリアの観光客の増加や地域住民による日常的な賑わいの創出を図ってまいります。

「食育の広域展開」につきましては、「カゴメ株式会社との共創プロジェクト」をはじめ、市内外の事業者を対象とした食の体験とワークショップなど、

民間企業と連携しながら、市民の皆様の健康やウェルビーイングの向上を図ってまいります。

有機農業の推進につきましては、現在 環境保全型農業 直接支払事業やスマート・DX農機の導入支援、KDDI 株式会社等の民間企業との連携等に取り組んでおります。

このたび、福井県の「官民共創プラットフォーム」に参画し、県等と連携して、有機農産物のブランド構築や、地場産学校給食の実現に向けた 庁内の横断的な検討、コウノトリとの共生など、有機農業のさらなる普及を図ってまいります。

県営産業団地の整備につきましては、地元 平野区の関係者 および 地権者の皆様の同意を得ることができました。皆様には、ご理解いただき感謝を申し上げます。

現在、農振除外にあわせて用途地域の指定の手続きを

進めているところであり、手続き完了後、土地売買契約の締結、登記、造成工事に着手し、令和10年度の分譲開始を目指してまいります。

今後、昨年11月に策定した「小浜市企業誘致戦略」に基づき、県と連携しながら積極的に誘致活動に取り組むとともに、ターゲットとする業種に合わせた助成金制度についても、検討してまいりたいと考えております。

加えて、若狭湾プレミアムリゾート構想においてエンゼルラインと鯉川シーサイドパークを候補地に選定し地域資源の価値を最大限に引き出し、地域のブランドとなるよう県と連携し取り組んでまいります。エンゼルラインにおきましては、民間事業者からの提案をいただいている状況です。

次に、「徹底的な子育て・教育支援」について申し上げます。

子どもの健やかな育ちと保護者の子育てを社会全体で支援するとともに、子どもたちに最善な保育環境を等しく確保し、多様な保育ニーズにも早期に対応することを目標として、今年3月に「第3期 小浜市子ども・子育て支援事業計画」「小浜市立保育園の統廃合および民営化計画（後期第4期）」を策定いたしました。

両計画は、今年度から5年間を計画期間として取り組む計画であり、今後、子育てにかかわる保護者、家庭、地域などと協力して、取組を進めてまいります。

子どもたちのキャリア教育につきましては、高校生を対象とした「OBAMAジョブフェス2025」の開催などに加え、今年度から、中学生が市内の企業の魅力や現状を調査・発信することで、将来の職業観やキャリアを考える活動に取り組んでいるところでございます。

これらの取組を通じて、多くの生徒やその保護者に地元企業を知っていただき、地元就職につながることを期待しております。

学校給食の無償化につきましては、国において令和8年度からの小学校での無償化について検討が進められており、市においても、令和8年度以降の無償化に向け、現在、関係団体等と協議を進めております。

併せて、本市の特色ある自校式地場産学校給食を継続することとしており、今後も食のまちにふさわしい学校給食の提供に努めてまいります。

スポーツまちづくりの推進につきましては、スポーツを通じたコミュニティの活性化や健康増進の取組を進めてまいります。

具体的には、若狭おばまマラソンなどにおいて市内外からの参加者と市民の皆様との交流を図ることや、スティックリングやモルックなど ニュースポ-

ツをはじめとする新たなスポーツに触れ合う機会を創出することなどにより、市民の皆様の健康増進や地域の活性化につなげるスポーツまちづくりの方向性を今後、示してまいりたいと考えております。

みんなで潤う☆小浜づくりにつきましては、市民の皆様や学生の柔軟な発想を生かした、地域課題の解決につながるまちづくり事業を募集いたしましたところ、現在13団体が提案事業を実践しております。これらの事業が、次年度以降も提案者自身で継続実施できるようサポートしてまいります。また、学生トライアルコース枠も拡充し、高校生や専門学校生、大学生の挑戦を応援していきます。

以上、私の公約の実現に向け、今後の所信の一端を申し述べさせていただきました。

引き続き、皆様が潤うまちづくりのため、対話によるまちづくりを進め、政策方針である「稼ぐ・活かす・

育む」の循環システムのエンジンが持続的に回り、あらゆる世代が融合して「挑戦」を応援していけるまちづくりを進めてまいります。

失敗・変化を恐れず挑戦する前向きな姿勢を、私が先頭に立ち責任を負う覚悟で職員一同と共に二年目からも前へ進めてまいりますので、議員の皆様をはじめ、市民の皆様の引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます、私の所信表明とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。